名古屋大学大学院多元数理科学研究科
平成２７年度教育・研究活動
年 次 報 告 書

平成２８年９月

名古屋大学大学院多元数理科学研究科

（５）授業時間割

平成２７年度前期時間割（数理学科）

		１年生	２年生	３年生	４年生
月	1	数学展望 Ⅰ （糸）		解析学要論 Ⅰ （菱田）	数理解析・計算機数学 Ⅲ （内藤）
	2	数学演習 Ⅰ （笹平・教務助教4名）			
	3				代数学 Ⅰ （藤原）
	4				
火	1			代数学要論 Ⅰ （古庄）	解析学続論 （加藤）
	2				
	3		現代数学基礎 B Ⅰ （行者）		解析学 Ⅲ （津川）
	4				数理科学展望 Ⅲ （山上・吉田・糸）
水	1		現代数学基礎 C Ⅰ （伊師）	解析学要論 Ⅱ （吉田）	幾何学続論 （太田）
	2				
	3				
	4				
木	1		数学演習 Ⅲ・Ⅳ	幾何学要論 Ⅰ （白水）	代数学続論 （谷川）
	2		（佐藤・笹原・YLC特任教員）		
	3		複素関数論 （中西） ※全学教育科目	数学演習 Ⅶ・Ⅷ	確率論 Ⅰ （林(正)）
	4			（永尾・大久保）	
金	1			数学演習 Ⅸ・Ⅹ	
	2			（鈴木・久本）	数理物理学 Ⅰ （浜中）
	3		現代数学基礎 A Ⅰ （稲浜）		応用数理 Ⅰ
	4				（大島・日比・盛田）

平成２７年度後期時間割（数理学科）

		１年生	２年生	３年生	４年生
月	1			数理科学展望Ⅰ	
	2			（木村・伊山・南）	数理物理学Ⅱ（粟田）
	3			現代数学研究（納谷）	幾何学Ⅱ（小林）
	4				
火	1			代数学要論Ⅱ（高橋）	
	2				確率論Ⅱ（吉田）
	3		現代数学基礎CⅢ（大沢）		数理科学展望Ⅳ（白水・寺澤・笹平）
	4				
水	1		現代数学基礎CⅡ（谷川）	数理解析・計算機数学Ⅰ	数理解析・計算機数学Ⅱ（ガリグ）
	2	数学展望Ⅱ（岡田）		（久保・笹原）	
	3				
	4				
木	1		数学演習 Ⅴ・Ⅵ（岡田・松本・岩木）	幾何学要論Ⅱ（糸）	代数学Ⅱ（齊藤）
	2				解析学Ⅳ（菱田）
	3	数学演習Ⅱ	現代数学基礎BⅡ（金銅）		
	4	↑（浜中・教務助教４名）			幾何学Ⅰ（夏目）
金	1		現代数学基礎AⅡ（杉本）	解析学要論Ⅲ（津川）	
	2				
	3		計算数学基礎（久保・佐藤）		応用数理Ⅱ
	4				（梅田・織田・中村）

（４）授業時間割

平成２７年度前期時間割（大学院）

		４年生と共通	大学院のみ
月	1	数理解析・計算機数学概論 III （内藤）	
	2		幾何学特論 I （小林）
	3	代数学概論 V （藤原）	
	4		
火	1	解析学概論 I （加藤）	
	2		
	3	解析学概論 II （津川）	
	4	数理科学展望 I （山上・吉田・糸）	
水	1	幾何学概論 I （太田）	
	2		
	3		予備テスト基礎演習 （藤江・寺澤）
	4		
木	1	代数学概論 I （谷川）	
	2		
	3	確率論概論 I （林(正)）	
	4		
金	1		
	2	数理物理学概論 I （浜中）	関数解析特論 II （リシャール）
	3	社会数理概論 I	
	4	（大島・日比・盛田）	

平成２７年度後期時間割（大学院）

		４年生と共通	大学院のみ
月	1		
	2	数理物理学概論 II （粟田）	
	3	幾何学概論 II （小林）	
	4		
火	1		
	2	確率論概論 II （吉田）	
	3	数理科学展望 II （白水・寺澤・笹平）	
	4		
水	1	数理解析・計算機数学概論 II （ガリグ）	
	2		複素幾何学特論 I （伊師）
	3		
	4		
木	1	代数学概論 II （齊藤）	
	2	解析学概論VI （菱田）	
	3		
	4	幾何学概論IV （夏目）	
金	1		
	2		解析学特論 I （青本）
	3	社会数理概論 II	
	4	（梅田・織田・中村）	

VI-C　就職・同窓会委員会

現在の多元数理科学研究科、数理学科における就職関連の行事は、３月に開催される企業セミナーとミニ同窓会、そして６月に開催される「働くこと＆インターンシップセミナー・数学教室ミニ同窓会」があり、OB・OG多数にご参加いただく当研究科独自の行事である。３月開催の企業セミナーとミニ同窓会は2014年度まで１２月に開催されていたものである。１９年度までは２月に開催されていた企業セミナーを１２月に開催されるようになった経緯として、１９年度３月に委員長が同窓の先輩方と懇談の機会をもち、活動方針、開催時期を決めた。その際にとくに問題になったのは、企業セミナー、ミニ同窓会への学生の出席率の低さであった。従来通り２月開催では、学生はすでにどの会社にいくか、ターゲットをしぼって活動しており、また講義期間中ではないため出席率が低くなると考えられた。１１月または１２月開催を検討して、１２月開催に変更し、その結果参加者も増えた。志望会社をしぼっていない段階でいろいろな会社の説明をきき、その後の懇親会で先輩方にリラックスした状況でさまざまな質問ができるなど参加者にとっても好評である。

平成２５年9月１３日に日本経済団体連合会より、「採用選考に関する指針」が公表され、「インターネット等を通じた不特定多数向けの情報発信以外の広報活動については、卒業・終了学年も入る直前の３月１日以降に開始する」と明記されているので、企業セミナー等は３月１日以降開催する、という方針に変更した。２７年度は３月４日に開催した。しかしながら、学生の参加者数は依然減少気味である。ミニ同窓会は学生が就職活動にはいる前に、実際に社会で活躍されている先輩方と話しをすることにより、視野を広げるために重要な役割を果たしており、参加した学生からの評価が高いだけに残念である。学生に対するキャリア教育の一環として、６月に「働くこと＆インターンシップセミナー・数学教室ミニ同窓会」を２２年度より開催しているが、学生達にキャリアをどのように考え、自分にあった進路を実際に自分たちの前を歩んでいる諸先輩方の体験を聞き、いろいろな質問を投げかける事によって探ることの重要性を強調する必要があるように思われる。

数学の博士の学生の会社への就職は米国、ヨーロッパ、中国では一般的であるが、日本ではまだめずらしい。会社とのインターンシップなどは少しずつ参加者が増えてきている。活躍しているのは大変喜ばしい。このように博士の採用に積極的な会社も増えているので数年したら博士の学生の就職の状況は劇的に変化する可能性がある。理学部への求人の特徴として、リーマンショック直後も修士卒が欲しいという会社が多い。ある経営者の言葉として、「博士を取るのは提案力に期待して、修士を取るのはその提案をサポートするために論文などを読む力に期待してである。経営者としての役割はそのような人たちと学部卒の人たちの仕事を創り出すことだ」があるが、これから日本が産業転換していく上で重要な役割を博士・修士の人材が果たして行く可能性を示唆している。多元数理科学研究科として、修士、博士といった高度な専門性を持つ社会で活躍できる人材を養成することは急務であると考えられる。学生および教員の意識を高めるために、「博士のキャリアパスを考える」と題して講演会および懇親会を開催し、6月１２日、１１月１１日と2回開催した。卒業生の田中祐一氏のご尽力による年１回の「アクチュアリー同窓会」も定着してきており、今年度は製造業の同窓生が集まる会を東京で開催した。

同窓生の尽力による企業との連携による講義も好評である。会社説明会、ミニ同窓会等同窓生の方々のご協力に深く感謝する次第である。

企業との連携による講義　　　（平成２７年度）

統計・情報数理概論 I

前期	原　重昭	公益社団法人日本アクチュアリー会　正会員

統計・情報数理概論 II

前期	坪野　剛司	一般社団法人 年金綜合研究所　理事長
	久保　知行	株式会社 久保総合研究所　年金数理人
	渡部　善平	株式会社 IICパートナーズ　コンサルタント 制度設計・国際案件リーダー

社会数理概論 I／ II

前期	日比　政博	日本アドバンストリーダーズソフトウェア株式会社　副社長
	盛田　洋光	エヌティーエンジニアリング株式会社　機械振動解析担当エンジニア
	大島　光	公益社団法人日本アクチュアリー会　正会員
後期	織田　一彰	スローガン株式会社　取締役
	中村　俊之	株式会社日立製作所デザイン本部　主任デザイナー
	梅田　英輝	株式会社一六社　代表取締役社長

応用数理特別講義 I／ II

前期	森　健策	名古屋大学大学院情報科学研究科　教授
	花薗　誠	名古屋大学大学院経済学研究科　准教授
	松井　一	豊田工業大学　准教授
	山田　博司	国立情報学研究所学術ネットワーク研究開発センター　特任教授
	梛野　浩司	三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券株式会社　部長代理
後期	佐藤　淳	名古屋工業大学大学院情報工学専攻　教授
	柴田　隆文	株式会社ＮＴＴドコモ東海支社 法人営業部　部長
	丹羽　智彦	トヨタ自動車株式会社 シャシー開発部第1シャシー開発室　主幹
	松崎　雅人	東邦瓦斯株式会社　顧問
	渡部　善平	株式会社 IICパートナーズ　コンサルタント 制度設計・国際案件リーダー